

# 2018（平成30）年度事業計画



## ～目次～

2018（平成30）年度事業計画にあたって	
2018（平成30）年度スローガン -----	1
I. 重点施策と重点事業 -----	1
II. 一般事業 -----	2
III. 長中期計画の行動計画より今年度取り組む施策 -----	3
IV. 広報戦略で今年度取り組む施策 -----	6
V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組む施策 -----	7
VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組む施策 --	7
2018（平成30）年度事業計画一般事業 -----	8
2018（平成30）年度事業カレンダー -----	10



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

## 2018（平成30）年度事業計画にあたって

2022年の日本連盟創立100周年まで、いよいよあと4年となりました。私たちは、この4年間で加盟登録人口が上昇に転ずるように、様々な施策に取り組んでいます。

今年度は、とくに「財政再建及び組織改革に関する基本方針」に最優先で取り組み、安定した組織でスカウト運動の価値を高めるよう徹底した点検・改革を行います。このことは、今後のスカウト運動の再興に向けてプログラムや指導者の質を向上させるためにも不可欠の措置だと思われま

す。また、都道府県連盟や加盟員の皆さんには、現状を十分ご理解いただき、未来のために加盟登録料を改定することが必要となります。皆さんに負担増を求める以上、日本連盟は、事業のあり方や組織体制について、聖域を設けることなく抜本的に見直し、効率的に組織運営を進めます。日本連盟のみならず、日本全国のスカウト組織全体が今年を運営面、財政面においても透明性を持って取り組む「ガバナンス元年」として、全員が一体となって再建に取り組まなければなりません。

日本連盟では、2016年度に策定した「100周年を目指した長中期計画」が3年目となり、広報戦略、加盟員拡大と中途退団抑止の取り組み、財政ビジョンを加えて、これまでに抱えた様々な課題を解決するため、新たなる施策を次々打ち出すべく努力しております。

8月には、石川県珠洲市で第17回日本スカウトジャンボリーが開催されます。この大会は第23回世界スカウトジャンボリーの経験を踏まえて、日本のスカウト運動の底力を示す事業となるよう全力を尽くしましょう。

これらの施策と事業を進めるため、皆様のさらなるご理解とご協力をお願いします。

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

理事長

**奥島孝康**

# 2018（平成30）年度 事業計画

## 2018（平成30）年度事業スローガン

「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」 ～日本連盟創立100周年を目指して～

2018（平成30）年度は、創立100周年まで4年となり、日本連盟創立100周年を目指した長中期計画は3年目の取り組みとなります。これに加え、財政再建及び組織改革に関する基本方針、広報戦略、加盟員拡大、中途退団抑止、財政ビジョンの施策により相乗効果を生み出すため、具体的な取り組みを進めます。

日本連盟では、第17回日本スカウトジャンボリー、RCJ野営大会、全国スカウトフォーラム等の開催、ボーイ・ベンチャー部門の新進級課程への取り組み、第26回アジア太平洋地域（APR）スカウト会議（フィリピン）への日本代表団派遣、各種海外行事への参加者の派遣等に積極的に取り組むとともに、創立100周年を目指した様々な準備を進めます。

そして、日本のスカウト活動の活性化と加盟員拡大を最大の課題として、次の施策・事業を展開します。

## I. 重点施策と重点事業

### 《重点施策》

#### 1. 財政再建及び組織改革に関する基本方針

2017年5月の全国大会における奥島孝康理事長による非常事態宣言を受けて、スカウト運動の再興に全力を尽くすため、経営状況の透明化や組織の効率化を進めます。そのため、今後の財政再建や経営体制のあり方について、次の7つの「基本方針」に取り組みます。

- ① 登録料の値上げによって財政を立て直し、スカウト運動の質を向上させる
- ② 事業や業務の全面的な見直しを行い、予算の効率化を実現する
- ③ 収入の柱のひとつであるエンタープライズの経営を刷新し、安定的に収入を確保する
- ④ 保有金融資産の活用や企業寄付の獲得など新たな収入の道を確保する
- ⑤ 高萩スカウトフィールドの活用方法を具体的に示す
- ⑥ 理事会の執行体制の明確化など組織体制の見直しを行う
- ⑦ 日本連盟の経営情報の透明化を進め、関係者の声を聞く

#### 2. 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

2022年度の日本連盟創立100周年までに達成する長中期計画については、今年度は3年目を迎えます。以下の12項目の行動計画への具体的な取り組みは、3ページから6ページの一覧表を参照してください。

- ① コミッショナーの充実 ② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)
- ③ 指導者養成 ④ 地域コミュニティづくり ⑤ プログラムの見直し ⑥ 登録制度の見直し
- ⑦ スカウティングにおける成人の役割 ⑧ 情報伝達手段の刷新 ⑨ 組織体制の検討
- ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ ⑪ 公益事業の取り組み ⑫ 野外活動施設の確保

#### 3. 加盟員拡大・組織拡充・中途退団抑止に向けた取り組み

加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の3項目を重点的に取り組みます。

- 加盟員獲得に向けた広報戦略の展開・スカウト活動のユニークさをアピール
- 団診断による団への支援と新団設立への取り組み
- 中途退団抑止のための支援

#### 4. 安定した運営

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の4項目への取り組みを進めます。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強

- 財政ビジョンへの取り組みと加盟登録料改定
- 世界・地域との連携

## 5. 100周年記念事業の策定

日本連盟創立100周年まで4年となる記念事業の様々な計画の検討を進めます。

- 記念事業の策定と準備開始
- 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）の会場決定

## 《重点事業》

### 1. 第17回日本スカウトジャンボリー

8月4日から10日まで石川県珠洲市で第17回日本スカウトジャンボリーを開催します。今回は、これまでの派遣隊方式から自団の隊のままで参加できる方式に変更することで、すべてのスカウトが自団の指導者と一緒に参加できるようになり、普段のスカウト仲間との班編成で、ベンチャースカウトの支援を受けながら大会参加に向けた事前訓練に取り組み、大会参加を通じて長期キャンプを实践することで、参加する隊や班の育成を図る機会としています。

### 2. 世界および国際事業への取り組み

第26回APRスカウト会議および第9回APRスカウトユースフォーラム（ともにフィリピン）に代表を派遣します。

平成31年度に実施する第24回世界スカウトジャンボリー派遣については、派遣実行委員会による日本派遣団の編成を進め、同会場で開催の派遣団長会議に参加します。

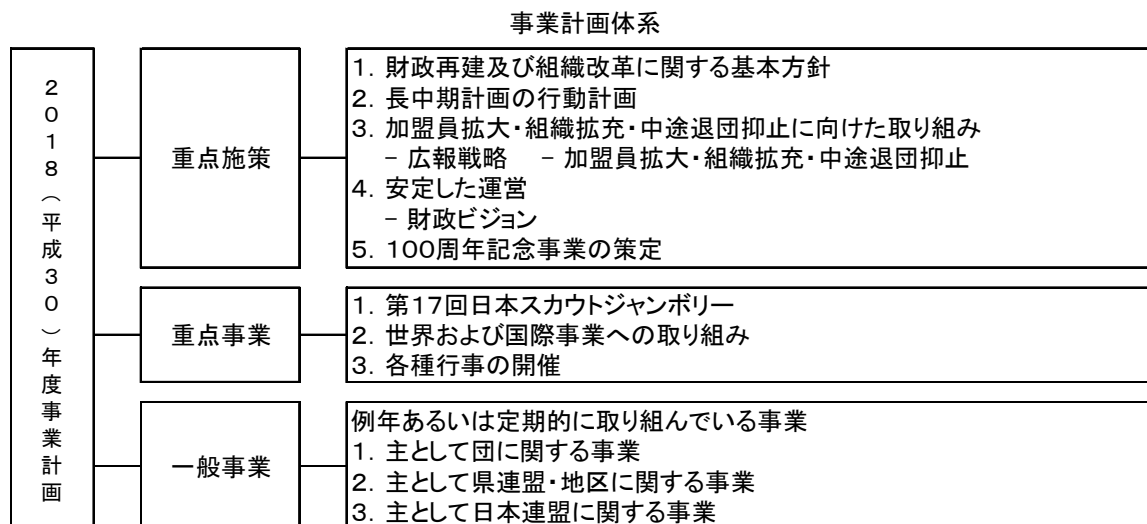
### 3. 各種行事の開催

RCJ野営大会、全国スカウトフォーラム等の行事を開催します。

## II. 一般事業

例年あるいは定期的に取り組んでいる事業を中心に、主として団に関する事業、主として県連盟・地区に関する事業、主として日本連盟に関する事業に分類し、8ページから9ページに一覧表で示します。これらの事業は、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団が連携して取り組むもので、一覧表には関係する組織に「◎」「○」を示しています。

各分類の中では、スカウトプログラム関連事業、指導者関連事業、団支援・組織拡充関係事業、国際関係事業、社会連携・広報関係事業、「セーフ・フロム・ハーム」・安全関係事業、運営事業等が判るように関係委員会等を略字で示していますので、参考にしてください。



### Ⅲ. 長中期計画の行動計画より今年度取り組む施策

#### 1. コミッショナーの充実

団担当コミッショナーの検証は今年度に制度継続の有無を判断する。(1-4)  
 平成28年度秋季から編成した「コミッショナー活動活性化検討タスクチーム」の答申をもとに、コミッショナー制度改革のため、それぞれの役務に必要な、知識・技能・心構えを見直し、あらたな「コミッショナー像」構築に向けた検討を行う。(1-9)  
 ラウンドテーブルの研究及び充実化(1-3)、各部門の質的向上(1-10)は、今年度中に取りまとめを行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
1-1	地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り	コミッショナーハンドブック(地区編)を発行する。これに基づき、コミッショナーを中心に地区内の支援体制を構築し、全ての役員が団、隊の支援を強化する。	○	○	○	○	○			コミッショナー チーム
1-2	地区コミッショナー養成訓練を充実する	HB(地区編)を軸に研修実施。(日連→県連→地区)	○	○	継続	⇒	⇒	⇒		
1-3	ラウンドテーブルの研究及び充実化を図る	ラウンドテーブルのあり方の研究と定型外訓練の場として活用する。	○	○	○					
1-4	団担当コミッショナーの検証	H28～29 団担当コミッショナー制度を調査する。 H30年度中に継続か廃止か判断する。	○	○	判断					
1-5	現任研修開始による支援任務の強化	再任時に研修を必ず実施。	○	○	○	○	○	○	○	
1-6	役務推進の自己貢献確認システムの導入(役務の進行状況を自己評価する)	自己研修課題を設定し、任期内に成果を上げること課す。正コミッショナーに自己評価を報告する。	○	○	○	○	○			
1-7	ブロック幹事の任務強化	研修、情報等を伝達するとともに、ブロック内の活動活性化の中心となる。	○	○	○	○	○	○	○	
1-8	県連盟コミッショナーの日本連盟登録	業務の重要性を鑑み スカウト活動活性化の中心である。日連方針の推進者であることから今後検討する。	○	○	○	○	○	○		
1-9	コミッショナー制度に関する研究諮問会議の設置	コミッショナーのあり方・制度を検討し答申する。	○	○	○					
1-10	各部門の質的向上	特にBS部門を中心としたもの。	○	○	○					

#### 2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

スカウト運動に関わる全ての指導者による「登録前研修」を実施し登録時に確認する仕組みを継続している。  
 また、県連盟・地区・団による「セーフ・フロム・ハーム」理解促進のためのセミナーを開催する。  
 平成29年度に設置した問題解決のための受付窓口は対処する組織整備を進める。  
 「思いやりの心を育む教育」を各スカウト部門においても浸透させるための啓発資料の作成や、広報媒体(PR動画発信・機関誌記事掲載等)を活用した活動を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
2-1	ポリシー(考え方)の制定、ガイドライン制定、登録との連動	平成27年度に制定済。指導者の登録条件として継続している。	⇒	完了						SfH安全
2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	問題解決のため、受付窓口を設定し、対処する組織整備を行う。	○	○	○	○				SfH安全 コミ 社・広報
2-3	普及、啓発のための研修、ツール開発。Eラーニングの活用	普及を図るためツールを作成し、提供する。	○	○	○	○	○	○		SfH安全
2-4	抑止力の検討と広報活動	危害を起さぬ機運づくりと広報活動(PR動画発信・機関誌記事掲載等)による繰り返しの周知行動を起こす。	○	○	○	○	○	○	○	SfH安全 社・広報

#### 3. 指導者養成

「日本連盟における指導者養成体制」は、成人の能力を認め、本運動に活かすという「スカウト運動における成人に関する世界方針」に則り、「任務中の成人への支援(インサービス・サポート)」の実施体制の構築を目指す。そのために、定型訓練を改訂し、これに偏重することなく、指導者が求める知識や技能が適時に必要に応じてコミッショナー及びトレーナーの協力により提供される支援体制を検討する。また、この体制を運用していくために、トレーニングチームの位置づけや役割、トレーナーの役務・任命等を見直す。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
3-1 3-2	1. ボーイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する	訓練及びインサービスサポートによって、プログラムの充実を図り、他項目の達成と連携して達成する。 全指導者のスカウト技能の修得とそれらを用いたプログラム企画力の向上。		○	○	○	○	○	○	指導者 養成
3-3	基礎訓練を全課程で共通化	全県またはブロックでのコースの実施。	○	○	○					指導者 養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設(長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神(スピリット)の体得。)	スカウト技能の修得及びプログラムへの展開。コース内容の研究・開発、実施。	○	○	内容 再 検 討	○	○	○	○	タスク チーム
3-5	指導者の更新研修の確立	更新コースの研究・開発。		○	○	○	○	○	○	ディレクター チーム
3-6	任務別研修の実施(必要な人に必要な訓練を行う)	コミッショナー、理事等に対する訓練開発を行う。実施についてはコミッショナーが担当する。		○	○	○	○			タスク チーム

#### 4. 地域コミュニティづくり

スカウト運動の組織拡充を図りながら地域連携の強化(4-1)については、防災キャラバンの拡大継続のほか、「子ども食堂」のフィージビリティスタディをはじめとして「子ども未来ネットワーク」構想を進め、地域社会と連携した事業の企画・開発・調整・実施を目指す。  
未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり(4-2)については、引き続きモデル県連盟への取り組みを進め、新団発足を進める。  
日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催(4-3)については、モデル県連盟への取り組みと共に進める。  
防災活動の地域連携による取り組み(4-4)については、今年度の取りまとめと共に、地域連盟の強化(4-1)で継続して取り組む。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	23WSJで連携した折鶴キャラバン、平成28年度の防災キャラバンを活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。	○	○	○	○	○	○		団支援・組織拡充 社会連携・広報
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発団させる。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。	○	○	○	○	○	○		役員 事務局
4-4	防災活動の地域連携による取り組み	国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。	○	○	○					SIH安全 防災 危機管理

#### 5. プログラムの見直し

平成29年度の新進級課程への移行に伴い、5-1、5-2、5-3は区切りをつけ、新システムの促進を進める。  
企業と連携したバッジシステムの共同開発(5-4)は、具体化を進める。  
野外活動の拡大(5-5)は継続した取り組みを行う。  
教育部門の4部門への移行検討(5-6)については、今年度に取りまとめを行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	○	○	○					プログラム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。	○	○	移行					
5-3	進歩の見直し→ターゲットバッジ・マスターバッジの発展的廃止	進歩課程の改定による移行時期満了による廃止。		○	○	○	廃止			
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-6	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エンター部門)、CS部門、BS部門(現行BS+現行VS)、RS部門(研究・社会貢献部門)。 現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○					

#### 6. 登録制度の見直し

社会連携・広報委員会によるOB取り込みのための新たな登録制度検討を「登録制度見直し」に加え、スカウトアラムナイ、シニアスカウト活動等100周年に向けた登録制度の導入を目指す。  
他の項目(6-1、6-2、6-3)は、来年度の実現に向けて具体化を進める。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討	BSの班制教育を基準とする班(組)のあり方と最小人数を探る。	○	○	○	○	○			団支援・組織拡充 プログラム コミュニケーション 財務 社広
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方	少子化による人数の少ない隊のあり方を探る。	○	○	○	○				
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録)	部門見直しに伴う登録の仕方、登録費等の検討をする。(BVS.RSの登録費について)	○	○	○	○				

## 7. スカウティングにおける成人の役割

「スカウト運動の成人に関する日本連盟方針」を広く周知し、成人の獲得から訓練・個人的発達・評価・再任までのライフサイクルの各局面において効果的な支援が出来るよう、コミッショナー及びトレーナーの役割を検討する。

また、青年世代のスカウトを世界に通用する人材として育成するための機会を提供し、スカウト運動の社会における有益性をアピールする。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
7-1	多彩で多様な人材を確保するためのスカウティングにおける成人のライフサイクルの定着化	役務が一人に集中しないよう定着化を図る。	○	○	○					指導者養成 コミッショナー
7-2	インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)	コミッショナーの依頼を受け、トレーナーの定型訓練外の活躍場所として機能させる。	○	○	○	○	○	○		コミッショナー 指導者養成
7-3	23WSJに参加・参画した人材を活用する。(人材の多様性を図る)	23WSJに協力頂いた人(特にホームステイ関係者)をアプローチして、援助を依頼する。	○	○	○	○				国際
7-4	幅広い人材の登用(特に若いユース等の県連・日連への登用)	運動の理解者→協力者→実務者に(そして登用)	○	○	○	○				プログラム コミッショナー 国際
7-5	ローバーの育成	APR、WOSMへ戦略的に育成して派遣する	○	○	○	○				

## 8. 情報伝達手段の刷新

平成29年度からペーパーレス会議を導入し、目に見える効果を上げたが、今年度はTV会議等の本格的な導入を行い、会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる	タスクチームを設置し、ICT活用実行に向け、取組を展開する。 目標 ①紙文書や郵送費の削減と情報の迅速化を図る。 ②TV会議等の導入により会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。 ③全ての会議は、タブレットを使用する形式の確立。等								事務局 ICT タスクチーム 社広
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信		○	○	○	○	○			
8-3	グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有									

## 9. 組織体制の検討

今年度は日本連盟と県連盟の役割による業務強化(9-3)、そして100周年基金の設立(9-4)を取りまとめることに重点を置く。基金については、企業との連携によるもの等も検討する。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進行を監視するチームをつくる。	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り(「企業連携」「公益性」を意識した組織)	企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。	○	○	○	○	○	○		事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。	○	○	○					事務局
9-4	100周年基金の設立	基金を設立し、社会貢献に繋がる事業をめざす。	○	○	○					事務局

## 10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

ボーイスカウト教育法や指導者訓練法を活かした野外活動指導資格制度の開発、そして企業・団体向けの研修システムの開発を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○			事務局 他

## 11. 公益事業の取り組み

- ・体験活動、野外活動などの研究と成果発表を行い、社会への青少年教育啓発を行う。
- ・運動体として日常的な善行を強化推進するとともに、善行キャンペーンなどを通じて国民運動化へ向けてアクションを起こす。
- ・高萩スカウトフィールドについて一般利用を促進し、自然体験の場として青少年を中心とした市民への啓発を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○			ミッション・プログラム 社・広報 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○	○			プログラム 事務局
11-4	現代青少年の研究	教育有識者会議を編成し、研究する。	○	○						プログラム 事務局

## 12. 野外活動施設の確保

- 高萩スカウトフィールドのグランドオープンに伴い、常設プログラムの提供を準備し、企業研修等の提供も行う。(12-1、12-2、12-5、12-6、12-7)  
 野営基準の見直しを行い、野営施設の基準ガイドラインを制定し、「ボーイスカウト公認野営場」の認定を行う。(12-3)  
 公認野営場を運営するスタッフやユース年代の育成のために高萩スカウトフィールドでのトレーニングを行う。(12-3他)  
 野営場を様々な企業、団体、行政に利用してもらうとともに共同事業を行うパートナー制度を構築する。(12-7)

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり)	「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。		○	○	○	○			プログラム タスクチーム 社・広 事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする)	高萩フィールドなどモデル野営地をつくる。		○	○	○				
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大	(平成30年度以降の取り組み) 日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供	野外活動を重視した集会パッケージの開発		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討	FHAのスタッフや高萩フィールドでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。	○	○	○	○	○	○	○	
12-7	施設を通じたパートナーシップの構築(自治体、企業、学校、教育機関、他団体、国(文部科学省、環境省、林野庁等))	諸施設を通じて関係機関とパートナーシップの構築を図る。	○	○	○					
12-8	ジャンボリー会場となりうる土地の確保	80万坪規模の常設ジャンボリー野営地を探す。	○	○	○	○	○	○	○	

## IV. 広報戦略で今年度取り組む施策

平成28年度・29年度に策定・実施した新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
IV-1	新広報戦略「10本の矢」の継続普及	改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す	○	○	○	○	○	○	○	社会連携・ 広報 団支援・ 組織拡充
IV-2	新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。	ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させるために、次の「新広報戦略10本の矢」に組織を挙げて取り組む ① イメージを統一して徹底的に発信 (例: コカ・コーラBS自販機は全国50台の設置を目標に) ② きっかけになるPR動画を拡散 ③ PRムービーコンテストの実施 ④ 関心を持った人たちをリクルートサイトに呼び込む ⑤ 団情報のHP発信支援 ⑥ 多くの人にスカウティングを体験してもらう機会提供 ⑦ 入隊したビーバー・カブのお母さんの声を聞く ⑧ ローバーを社会に売り込む ⑨ かつての仲間を呼び戻す ⑩ 「PRドリームチーム」参加促進		○	○	○	○	○	○	



## V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組む施策

今年度の重点施策として、加盟員拡大と中途退団抑止に取り組むが、長中期計画、広報戦略、財政ビジョンによる相乗効果を考慮した具体策を進める。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
V-1	各年度事業計画の重点施策としての加盟員拡大への取り組み	長中期計画に含まれている課題に加えて、団支援・組織拡充委員会による加盟員拡大の取り組み	○	○	○	○	○	○	○	団支援・組織拡充 社会連携・広報 中途退団抑止特別
V-2	都道府県連盟による100周年を目指した加盟登録人数目標設定	都道府県連盟による加盟登録人口見込みを毎年度分析し、必要な支援を行う		○	○	○	○	○	○	
V-3	各団の加盟登録人数に基づく団新団	都道府県連盟へ毎年度団診断のデータを提供し、団支援の具体的な対応を進める。		○	○	○	○	○	○	
V-4	中途退団抑止への取り組み	平成29年度のタスクチームによる検討を踏まえ、今年度からの特別委員会として具体的な取り組みを開始する			○	○	○	○	○	
V-5	長中期計画との相乗効果	平成28年度から取り組んでいる長中期計画の相乗効果を狙った具体的な中途退団抑止策の取り組み			○	○	○	○	○	

## VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組む施策

日本連盟の維持・発展には、財政面の対応が不可欠である。平成29年度に取りまとめられた「日本連盟100周年財政ビジョン」に基づき、必要な財政再建を進め、長中期計画、広報戦略、加盟員拡大と中途退団抑止を効果的に進め、相乗効果を達成する。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
VI-1	政策課題への取り組み	1. 中途退団抑止策への財政面施策 2. 共済事業への財政面施策 3. 特定資産取崩分積立施策			○	○	○	○	○	理事会 財務 事務局
VI-2	自助努力による経済効果策	次の自助努力により収入増と支出減を図り、その財源を中途退団抑止に役立てる。 【収入増の取り組み】 1. 国債の不動産化と本郷会館の賃貸化 2. 集会等参加者負担金の値上(単年度処理案件のみ) 3. 施設利用料の増収 4. 企業からの協賛金 【支出減の取り組み】 1. 事務局人件費削減化 (25人体制・登録業務アウトソーシング化)			○	○	○	○	○	
VI-2	加盟登録料の改定	財政健全化のために加盟登録料の改定は避けて通れないため、次の対応を進める。 1. 平成31年度からの加盟登録料改定を進める 2. その2年後から総収入の変化に対応した「総収入リンク型」への移行も視野に入れる				○		○		
VI-3	今後の日本連盟の財政のあり方の検討	財政ビジョンの取り組みと同時に、今後の日本連盟の財政のあり方を具体的に示す。			○	○	○	○	○	

# 2018(平成30)年度 事業計画 一般事業

\*重点施策・重点事業に含まれるものを除く

		一般事業	所管組織			
			日	県	地	団
主として団に関する事業	1	スカウトの信仰を奨励する。(信仰奨励委員会・宗教関係者の会)	◎	◎	◎	◎
	2	礼儀(挨拶)と規律(基本動作とスマートネス)を基準に基づいて確実に指導する。(日コミ・県コミ・地区コミ)	○	◎	◎	◎
	3	スカウトの「日日の善行」を班・隊活動のほか日常生活の中でも促進する。(隊)				◎
	4	班・隊・団・地区・県連としての地域奉仕活動のほか、地域団体とも協力して行う。		○	○	○
	5	震災等の復興支援活動を展開する。(団、地区、県連、日連)	○	○	○	○
	6	「スカウトの日」には各種奉仕を中心とした活動を積極的に展開する。(プ・県連)	○	○	○	○
	7	スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用する。(プ)	○	◎	◎	◎
	8	第61回JOTA、第21回JOTIへの参加を推進する。(プ)	○	○		○
	9	英国エディンバラ公国際アワード(プログラム)の推進を図る。(プ)	◎	○	○	◎
	10	BVS・CS部門からの上進率を高める施策を検討し(プ、県コミ)、隊、団がこれを活用する。	◎	○	○	◎
	11	隊長と保護者のコミュニケーションを一層密にする。(スカウトの成長などについて)				○
	12	団・隊はスカウト・保護者に対して、「スカウト活動に関するアンケート」を活用する。(団・組)	○	○	○	◎
	13	各団で説明会の普及を図る。県連盟・地区は団が有効活用できるよう支援を行う。(団、地区、県連)		○	○	◎

主として県連盟・地区事業	1	各種訓練機関(BS講習会、WB研修所、WB実修所、団委員実修所など)を実施する。(指)	◎	◎	○	
	2	「スキルトレーニング」への積極的な取り組みを促進し、上級訓練への参加者数を増加させる。(指)		◎	○	○
	3	隊指導者の当該隊指導者上級訓練課程への参加を促進する。(指、コミ)			◎	○
	4	各種訓練やインサービス・サポートを通じて指導者の資質の向上を図る(指・県コミ・地区)	◎	◎		
	5	特に若手指導者を表彰できるようにする。(日コミ・県コミ)	◎	◎		
	6	団・地区・県連盟に「組織拡充担当」を置き各組織にて会員拡充を推進する。(団・組)			◎	○
	7	組織間の訪問を推進する。日連→県連、県連→地区、地区→団	◎	◎	◎	
	8	アウトドアチャレンジ事業を県連盟独自事業として展開する。			○	
	9	安全促進フォーラムを開催する。(SfH・安)	○	◎		
	10	「思いやりの心を育む教育」に関する研修を実施する。(SfH・安)			◎	○

主として日本連盟事業	1	富士スカウトを顕彰する。(代表表敬)(プ)	◎	○	○	○
	2	全国ローバースカウト会議(RCJ)を通じてローバースカウト活動の活性化を図る。(プ)	◎	○	○	○
	3	「青少年の意思決定への参画」をより推進するため、全国スカウトフォーラムを開催する。(プ)	◎	○	○	○
	4	全国ローバースカウト会議の活動を活性化し、全国事業を開催する。(プ・日コミ)	○			
	5	英国エディンバラ国際アワードリーダー研修会を開催する。(プ)	◎			○
	6	海外派遣事業を実施する。(国)	◎	○	○	○
	7	海外スカウト受入事業を推進する。(国)	◎	○	○	○
	8	国際活動サービスチームの活動を推進する。(外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等)(国)	○			

		一般事業	日	県	地	団
主として日本連盟事業	9	イン・サービス・サポート(指導者への任務中の支援)充実のため、各種資料を作成する。(指)	○			
	10	日本連盟トレーニングチームの充実を図る。(指)	○			
	11	平成30年度全国大会を開催し、指導者としての研鑽を積む。(岐阜県岐阜市)	◎	○	○	○
	12	組織拡充モデル県連盟を数県連指定して日本連盟と一体となって組織拡充を推進する。(団・組)	◎	○	○	○
	13	全国組織拡充担当委員長会合を開催する。(団・組)	◎	○		
	14	組織拡充顕彰を実施する。(団・組)	○			
	15	中途退団数の実人数を把握する。(事)	○			
	16	全国BS写真コンテストを実施する。(社・広)	◎			○
	17	新刊書籍・資料の検討を行い発行する。(プ、指、社・広)	○			
	18	WOSM・外国連盟資料を翻訳し出版する。(プ、指、社・広)	○			
	19	絶版書籍の再版を検討し実施する。(プ、指、社・広)	◎			○
	20	各種ハンドブックの内容改訂を行う。(関連委員会)	○			
	21	スカウト歌集の編纂を検討する。(ソ)	○			
	22	スカウトソング研修会・ワークショップを開催する。(ソ)	◎			
	23	維持会員入会促進活動等を推進する。(事)	○			
	24	ボーイスカウトカードへの入会促進を図る。(事)	○			
	25	遺贈システムのPRと促進を図る。(事)	○			
	26	世界スカウト財団・APR財団への支援を行う。(事)	○			
	27	スカウトライオンズ/スカウトロータリアン入会促進活動等を推進する(事)	○			
	28	ともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラムを促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
	29	書き損じはがき等回収による「もったいない寄附」を促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
	30	23WSJで構築した募金ネットワークを継承し活用する。(社・広、財)	◎			
	31	行政・民間からの委託・助成事業を獲得する。(事)	○			
	32	東京オリンピック・パラリンピック支援への準備に取り組む。(事)	○			
	33	新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置し検討を進める。(PT) (日本ジャンボリーなど開催可能な常設キャンプ場や指導者訓練野営場の確保を目指す)	○			
	34	静岡県立富士山麓山の村施設の活用を促進する。(事)	◎	○	○	○
	35	野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ、 全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進する。(PT、プ)	◎	○	○	○
	37	防災・危機管理に関する提言を具現化する。(防危)	◎	○		
	38	「共済事業」の運用を行う。(共済委員会)	◎	○	○	◎

2018(平成30)年度事業カレンダー

平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月	平成30年7月	平成30年8月	平成30年9月	平成30年10月	平成30年11月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
1 日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	1 日
2 月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	2 日
3 火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	3 日
4 水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	4 日
5 木	土	火	木	水	月	金	月	水	土	火	5 日
6 金	日	水	金	木	土	日	火	木	水	月	6 日
7 土	月	木	土	火	金	日	水	金	木	月	7 日
8 日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	8 日
9 月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	9 日
10 火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	10 日
11 水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	11 日
12 木	土	火	木	水	月	金	月	水	土	火	12 日
13 金	日	水	金	木	土	日	火	木	水	月	13 日
14 土	月	木	土	火	金	日	水	金	木	月	14 日
15 日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	15 日
16 月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	16 日
17 火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	17 日
18 水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	18 日
19 木	土	火	木	水	月	金	月	水	土	火	19 日
20 金	日	水	金	木	土	日	火	木	水	月	20 日
21 土	月	木	土	火	金	日	水	金	木	月	21 日
22 日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	22 日
23 月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	23 日
24 火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	24 日
25 水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	25 日
26 木	土	火	木	水	月	金	月	水	土	火	26 日
27 金	日	水	金	木	土	日	火	木	水	月	27 日
28 土	月	木	土	火	金	日	水	金	木	月	28 日
29 日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	29 日
30 月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	30 日
31 火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	31 日

日本連盟以外の行事予定(通称のあったもの)  
 群馬県連盟第16回県カブラリー、埼玉連盟第12回高カブラリー、富山県連盟第60回高山県大会(4/29)、三重連盟第9回三重ベンチャー大会、鳥取連盟野営大会、兵庫県連盟第68回広島県大会「班長の日」(9/09)、愛媛県連盟三坂野営訓練(5月)、愛媛県連盟スカウト研究発表会(2月)、熊本県連盟第3回県カブラリー(11月)、沖縄県連盟友愛カブラリー(10/27)、沖縄県連盟日米友愛キャンプ(11/02-04)、沖縄県連盟カーナビカブまつり(12/09)、沖縄県連盟キャンプボリー(2/09-05)